

東北 3.11 基金

東北 3.11 基金では、東日本大震災で被災した子どもたちを支援している団体を対象に、年に一度、助成団体を公募・選考しています。2020 年度はこの 3 団体に決定しました。

特定非営利活動法人 **ふくしま30年プロジェクト** ～ 田んぼと里山 米づくりと自然体験活動 ～

東日本大震災による原発事故から9年が経ち、福島県内では市街地の除染が進む一方、里山や農地の除染は進んでいません。そのため子どもたちが、自然の中で土に触れる機会が制限される状況が続いています。

本事業では、福島市、伊達市の子どもたちとともに、年に数回、山形県大江市の農地に行き、田植え・草取り・稲刈り等の農業体験や里山での自然体験を行います。これらの活動を通して食の大切さ、仲間と協力し合う大切さ、自然の豊かさを知り、課題解決能力や豊かな人間性などの「生きる力」を育みたい。



北上 まちかど保健室

宮城県石巻市北上地区では、東日本大震災により人口の流出が続き、小学校が統合されたことにより、コミュニティが作られにくい環境にあります。子どもたちはバス通学となり、放課後気軽に遊ぶことができず、保護者が集う機会も減っています。本事業では、小・中学校の養護教諭として37年務めてきた代表が中心になって、北上まちかど保健室を設立。子どもたちの居場所、保護者や地域の人々の交流の場、子育て相談の拠点となることで、地域の希望である子どもたちを中心に、地域コミュニティの再生を目指したい。



一般社団法人 **ワタマスマイル** ～ かづま地域子ども食堂 ～

宮城県石巻市はひとり親世帯の割合が多く、震災を経てその数は増加、今年は新型コロナウイルスの影響による親の失業等で、さらに貧困家庭が増加しています。

十分な食事が取れない、家庭での居場所がない、不登校になっているなど、困窮している子どもたちの支援のため、子ども食堂と学習支援を行なっています。

学校、PTA、社協、自治会などを含む「かづま地域子ども食堂実行委員会」を結成し、子ども食堂の運営とともに、課題を抱えている子どもたちを支援につなげるべく市の支援課や福祉課などと連携していきます。

